

日進月歩

令和2年3月16日(月)
世田谷区立塚戸小学校
6年学年だより NO. 12
校長 石田 孝士

～6年生のみなさんへ～

虹の足

吉野 弘

雨があがって
雲間から
乾麺みたいに真直な
陽射しがたくさん地上に刺さり
行手に榛名山が見えたころ
山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。
眼下にひろがる田圃の上に
虹がそっと足を下したのを！
野面にすらりと足を置いて
虹のアーチが軽やかに
すくくと空に立ったのを！
その虹の足の底に
小さな村といくつかの家が
すっぽり抱かれて染められていたのだ。
それなのに
家から飛び出して
虹の足にさわろうとする人影は見えない。
——おーい、君の家が虹の中にあるぞオ
乗客たちは頬を火照らせ
野面に立った虹の足に見とれた。
多分、あれはバスの中の僕らに見えて
村の人々には見えないのだ。
そんなこともあるのだろう
他人には見えて
自分には見えない幸福の中で
格別驚きもせず
幸福に生きていることが——。

学校が休校になって、2週間が経とうとしています。先週、世田谷区からお知らせがあったように、今週以降も休校が続きます。残念ながら次にみなさんに会えるのは、25日の卒業式ということになりました。

この2週間、みなさんはどのように過ごしてきましたか？休みの初めの方は、「学校がなくて楽でいいなあ」と思った人もいるかもしれません。でも、そろそろ、学校で仲間と勉強したり、遊んだりすることが恋しくなってきた人もいるでしょう。ましてや、小学校生活の最後の1ヶ月です。進路がちがう仲間と、最後の時間を過ごしたかった人も多いのではないのでしょうか。

学校の先生たちも、同じ気持ちです。これまで、一生懸命に頑張ってきたあなたたちと、最後の思い出を作って卒業式に向かいたかったと思っています。でも、残念ながら、それは叶いません。けれども、下を向いてばかりいても、前に進むことができません。今できることを、一つ一つやるしかないのです。だから、卒業式までの間、学年通信を通して先生たちの思いを伝えることにしました。

左に載せた詩は、「虹の足」という詩です。当たり前には学校に登校できたときには、「めんどうだな」「休みたいな」と思うこともありましたね。でも、今の状況になって初めて、当たり前には学校に行けることや、当たり前には友達と遊べるのが、どれだけありがたいかということ、身に染みて感じます。

私たちが普段「当たり前」だと思っていることは、実は当たり前ではないのかもしれません。人間は、幸せなときは、自分には見えない幸せの中で、「自分が幸せだ」ということを特に意識せずに生きているということなのでしょうね。

卒業式に向けて

今日から、この学年だよりを通して、卒業式関係のお知らせも行います。25日の卒業式で、立派な姿を見せられるよう、チェックをしていきましょう！